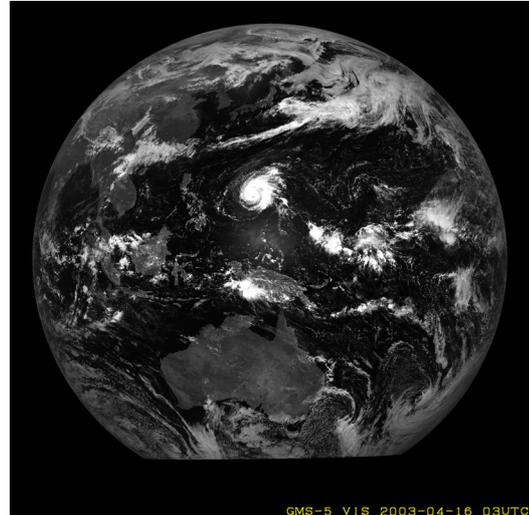
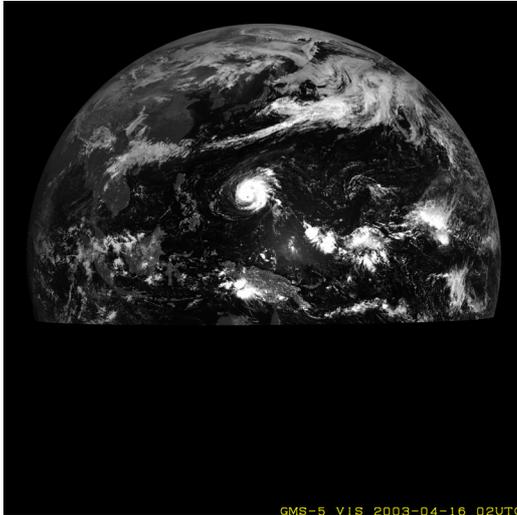
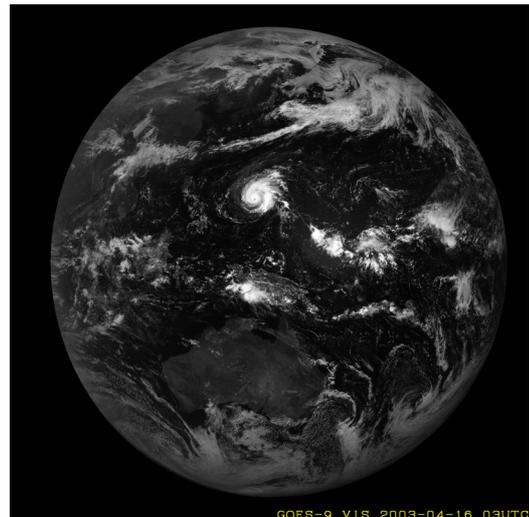
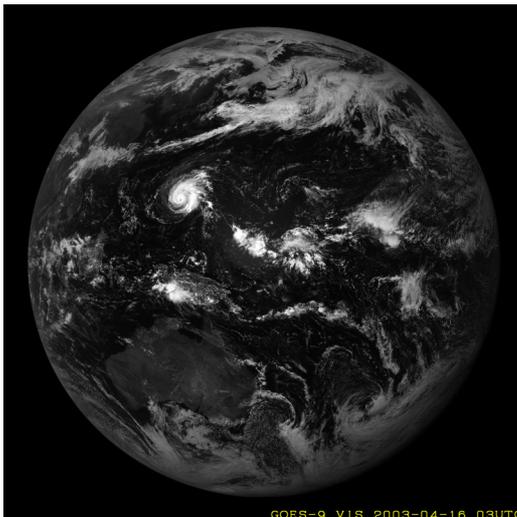


気象衛星画像

—今月のトピックス—



GMS-5の観測範囲 2003年4月16日11時(左)と12時(右)の可視画像



上段右と同時刻のGOES-9による可視画像 オリジナル(左)と変換処理後(右)

GMS-5(ひまわり5号)を引き継ぐGOES-9(ゴーズ9号)

GMS-5は後継機のMTSAT(運輸多目的衛星)が打ち上げに失敗したため設計寿命を超えて運用され、走査鏡軸受けベアリングの潤滑剤に偏りが生じてきた。特に南側の偏りが大きかったため、2001年7月14日からは上段の写真のように3時間毎は南端を縮小した全球観測(右)、その他の時刻は南緯10度程度までの準半球観測(左)の運用にして対処してきた。今後、観測が困難となることが予想されるため、米国と協定を結び静止気象衛星GOES-9を東経155度の赤道上に移動させて観測を引き継がせることとなった。下段の写真がGOES-9による可視画像である。左がオリジナル画像、右はオリジナルデータをGMS-5の位置である東経140度上空からの眺めに変換処理したもの。GOES-9の画像(右下)は西側が撮影範囲外のため完全な円形になっておらず西方の解像度も低下しているが、その他の部分はGMS-5の画像(右上)とほぼ同等な画像が得られている。(気象衛星センター)